

石垣島・白保竿根田原洞穴遺跡から出土した旧石器時代人骨の研究

文学部 河野礼子

1. はじめに

琉球列島は国内で旧石器時代にさかのぼる人骨が発見されるほぼ唯一の地域であり、更新世に最初に日本列島へ到来した人類に関する研究において最重要地域です。2020年に国指定の史跡となった石垣島・白保竿根田原洞穴遺跡(白保遺跡、図1・2)では、2007年の発見以来、更新世末の3万年前ごろから近世にかけての文化層が確認され、計7回の発掘調査でのべ74m²に及ぶ面積が発掘され、更新世末から完新世初頭の1100点を超える人骨片が回収されています。この中には「顔のわかる」保存のよい頭骨4体分を含め、約20個体分の骨が含まれていることがわかりました。人骨の年代は、放射性炭素年代法によって、更新世末から完新世初頭を主体とすることが明らかになっています。これらの人骨資料は世界的にも前例のない規模のもので、研究が進めば更新世日本列島人の姿が今までにない精度で明らかになると期待されます。また、白保の洞窟が断続的に墓地として利用され、その葬法は琉球地方に近年まで受け継がれてきた「風葬」に類似するものであったこともわかってきました。今回は、白保遺跡の概要と、これまでに進めてきた頭骨のデジタル復元や生前の顔貌の復元の結果など、旧石器時代人骨についての研究の現状を紹介します。

2. 人骨の分布・出土状況から見える白保旧石器人の葬法

人骨片は調査区全体から見つかりましたが、詳しく見ると5か所に人骨が集中しており、明らかに分布が偏っていることがわかりました(図3)。この5つの集中部(ユニット)から見つかった人骨にはそれぞれ全身の骨が含まれていることから(表1)、集中部は偶然できたのではなく、その場所に遺体が意図的に葬られたようです。とくに調査区H4の岩陰から発見された全身骨格(白保4号)は、全身の骨がややバラけながら全体としてはもとの位置関係をおおよそ保ち(図4-1,4-2)、両膝を胸のほうに強く屈曲させた仰向けの姿勢であったことが見て取れました(図4-3)。白保4号人骨はこの岩陰に置かれた遺体とその場で骨化したものと推測されます。またH6区でも、関節した状態の骨は見つからないものの、H4区と同様に膝を胸に近づけた1体分の骨の存在が示唆されました。さらに別の個体の骨が岩陰の壁際に集まっており、先に葬られた骨を奥壁側によけて、新たな遺体を同じ場所に追葬したものと考えられます。

このように人骨の分布や出土状況からは、遺体は洞穴内で埋めずに安置されたことが強く示されました。集骨のような意図的な骨の移動の痕跡もあることから、白保人骨は琉球列島から東南アジアにかけてみられる、遺体を土中に埋めずに骨化させる葬法、すなわち崖葬(風葬)によるものである可能性が高いと考えています。

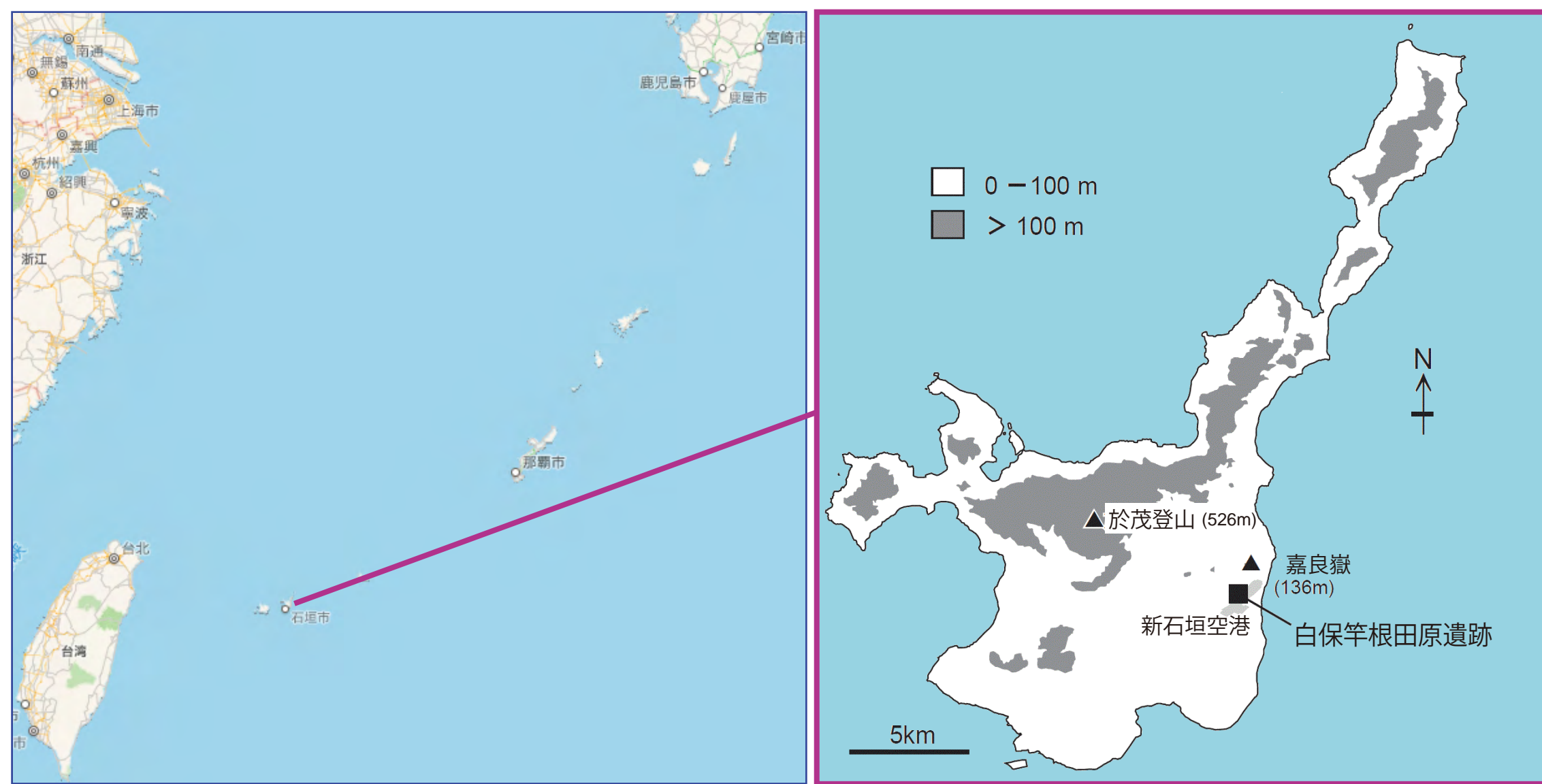


図1 白保竿根田原遺跡の位置



図2 白保遺跡の全体観

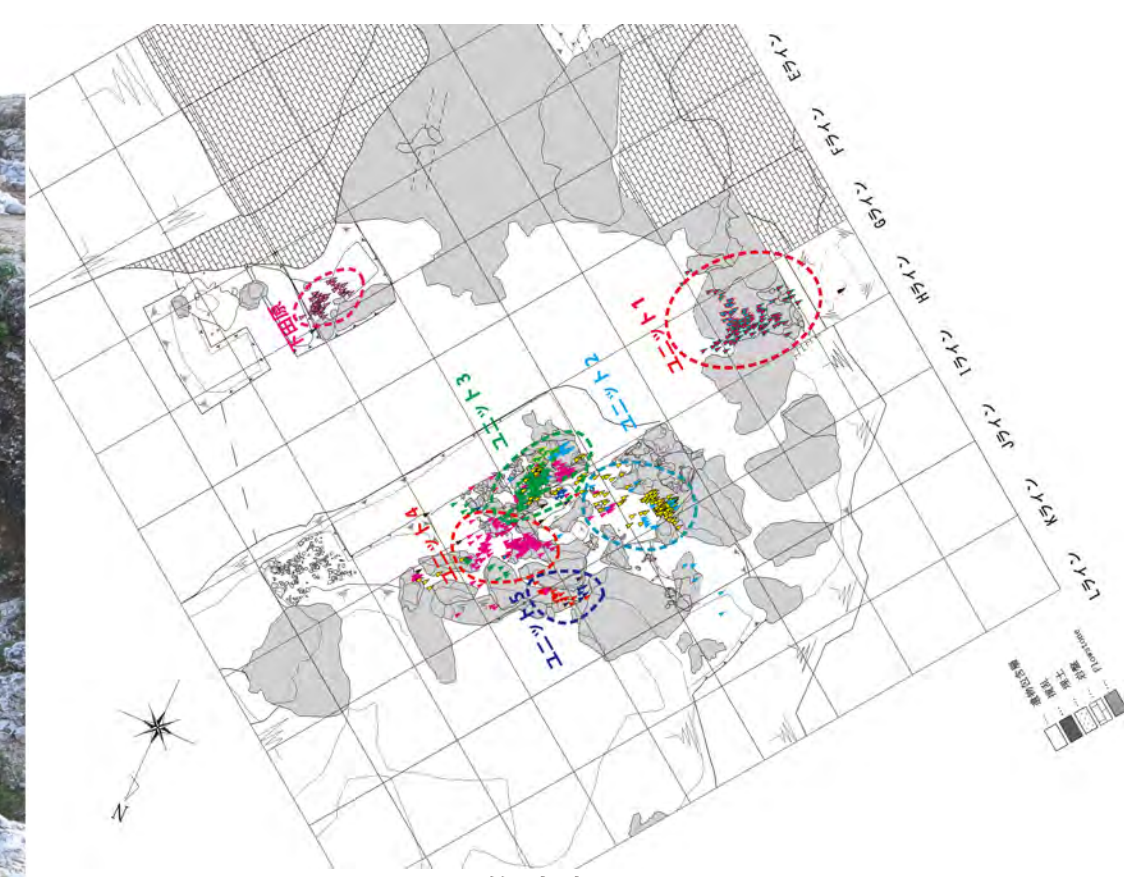


図3 人骨集中部



図5 白保4号個体の全身骨格。推定身長165.2cm。



図4-1 H4グリッドにおける白保4号個体骨の出土状況

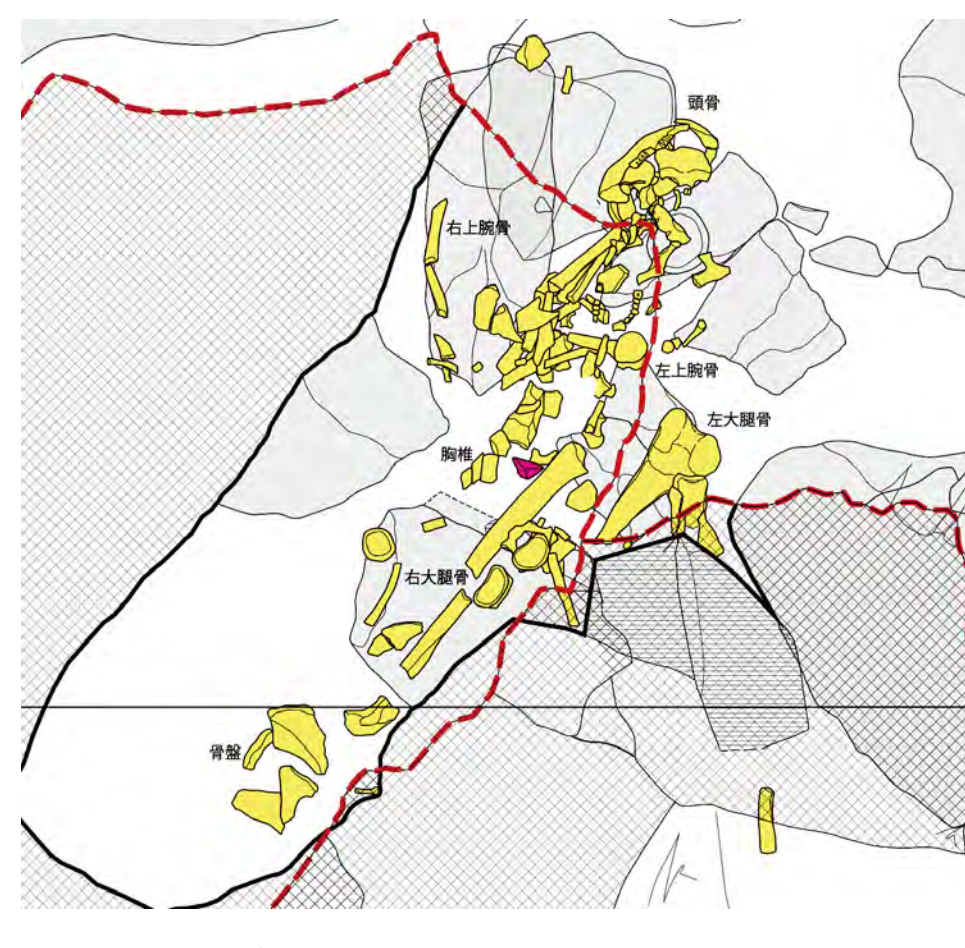


図4-2 H4グリッドの骨の配置



図4-3 想定される白保4号の葬送時の姿勢

表2 骨と歯で独立に推定した各ユニットの個体数

ユニット	未成人		成人		計	
	歯	骨	歯	骨	歯	骨
1		1	5	2	5	3
2			3	6	3	6
3			5	5	5	5
4			2	2	2	2
5			1	3	1	3
他			2		2	
計		1	18	18	18	19

表1 ユニット(集中部)ごとの各骨格部位の発見数

ユニット	調査区	頭	上顎	下顎	歯	上肢	下肢	椎骨	肋骨	手	足	寛骨	計
1	G7, G8, G9	34	2	7	17	27	20	15	25	14	1	6	168
2	H6	32	4	5	50	16	34	12	4	11	15	7	190
3	G5	10	2	4	14	33	7	28	59	7	7	2	173
4	H4	17	2	3	4	28	21	27	39	18	5	11	175
5	I4, I5	1			4	4	4	4	5	1	7	4	34
	計	94	10	19	89	108	86	86	132	51	35	30	740

3. 何人いたのか?

更新世の層準からは比較的保存のよい頭骨を含む4個体が発見されました(白保1~4号)。この4個体を含めて全部で何個体分の骨なのかを、同一部位の骨が最大何点見つまっているかという観点から検討すると、全部で19個体分が含まれていることがわかりました(表2; 男性9個体、女性5個体、性別不明4個体、未成年1個体)。一方、200点以上の歯の分析からも18個体の存在が示唆されました(表2)。これらの結果から、白保遺跡の更新世の層準には、おおよそ20個体分の骨が含まれていると判断しました。不思議なことに、これだけの数にもかかわらず、乳幼児などはまったく含まれず、未成年個体も非常に少ないのです。